

リーディングDXスクール事業【実践事例】

川崎市立南河原小学校

【取組内容④】 校内研修等の業務で『目指す授業の在り方』を体現

目指す授業としての「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を
まずは校内授業研究会の研究協議で体現する。

これまで

1つのJamboardにグループで付箋を出し合い、グループの考えをまとめる。

実践

1人1Jamboardで学んだことを一人一人がまとめ他者参照。最後に言語化する。



- **情報の収集**
話し合いや講師の助言を聞きながら付箋を追加して情報収集していく。
- **整理・分析**
他の人の考えを他者参照しながら、考えたことを整理・分析する。
- **まとめ・表現**
最後に自分の考えを文章でまとめ、表現する。明日からの自分の実践にどうか、新たな課題を設定し、一人一人が自分事として考えをまとめる。

《まとめ》

- ・情報収集・整理分析のまとめと『話し合い』が同時に行える点よい。
- ・自分の考えをまとめる際に話し合うのは、効果がないかもしれない。
- ・個人のめあてを『この学習でどんな力をつけたいか』『何を目的にして交流をしたいか』など、具体的なものにしていくために支援が必要。
- ・話し合いの表現、整理分析の話し合いの流れを個人が選択してもいい。
- ・6年生で目標を達成するために、1年生から段階的にどんな力を身につけていけばよいか考えていくことが必要。
- ・他者参照する力も大切にしてほしい。
- ・比較する視点と比較する準備（並べる・そろえる・既習との違いなど）を大切にしていきたい。

本時中に

情報収集・整理分析

友達の話し

課題

めあて

具体的めあて

ゲームボード

情報を相手に伝えればよいか

情報収集・整理分析

練習

テーマについて自分はどう思ったか

指導主事より

自分なりの目的意識	学びの形態を児童が自己決定
最後は個に戻る	アクロバットを準備した授業の児童の思考の高まり
発達段階に応じた学習の活用	汎用的な考え方の指導・積み重ね

最初はできるようにしてきたが、本当に学習の深まりが生まれたのか。それを生かすためには、アクロバット、関わり、発達段階に応じた学習の活用、教科としての見方・考え方を働かせることができるかを意識する。

学習サイクルを自ら進んでいくことで、児童が自分で学びをつくり出していくことができるようになる。このやり方を続けたいこと、何がみえてくるかやっていたい。

同じテーマで深めるが目的だが、実際深まったか

どうしたら良いか

解決？深められたか

なぜ、食べ物がつかない？

みんなで見よう

自分を読みを伝え合う

移動...

ねらいたいところは、同時進行

話し合いが自然に取れる。読み取りながら話し合う。

教師は、つなぐ役として

文章を根拠に！(国語として)

〇〇さんがこう言っていたよ

あのグループに行ってみたら

先生たちの声

授業でも1人1Jamboardを活用している。実際に自分たちでやってみると、授業でもっとこうやってみようというアイデアが湧いてくる。

グループで考えをまとめると経験の少ない先生は意見を出しにくいことがあったけれど、1人1Jamboardだと自分で考えて表現しないといけないので、頭がフル回転する。困ったときはベテランの先生のJamboardを参考できるので勉強になる。

